

キヤノン株式会社

2026 年 第 2 四半期 決算説明会【QA まとめ】

- Q1. 第 2 四半期の営業利益について、為替や関税還付の影響を除くと計画に対して、どうだったのか教えてほしい。**
- A1.** メディカルの生産トラブルによる売上減影響と、主にプリンティングにおいて前回見込んでいなかった中東影響に起因する原材料コストアップにより計画から下振れているが、それ以外はおおむね計画通りである。
- Q2. 下期計画について、前年比での販売数量増減をどのように織り込んでいるか。**
- A2.** 米国で値上げを行ったことで大幅な数量減となった昨年と比べると、今年の下期は増加する計画である。加えて、半導体露光装置はメモリ向け需要が拡大しており、プリンティングについても新製品による数量増を見込んでいる。
- Q3. 下期の売上・利益について、第 3・第 4 四半期のバランスを教えてほしい。**
- A3.** 中東情勢の悪化影響が 9 月末まで継続する前提で織り込んでいるため、正常化してくる第 4 四半期の方が例年に比べて売上・利益ともに割合が大きくなる。
- Q4. 関税について、第 2 四半期の前年比 580 億円、年間見通しの前回計画比 375 億円のプラス影響は還付金によるものか。また、第 2 四半期と年間見直しにおけるセグメント別の内訳を教えてほしい。**
- A4.** 第 2 四半期についてはほぼ関税還付によるものである。年間見直しについても同様に関税還付によるものだが、下期は拡販プロモーションを行う計画を織り込んでいるため、第 2 四半期の数値に比べて影響額が小さくなっている。なお、還付金については上期に 9 割以上を受け取っており、下期はごくわずかな金額だけになる。セグメント別の影響は、第 2 四半期・年間ともに約 3 分の 2 がプリンティング、残りがイメージングである。

キヤノン株式会社

2026 年 第 2 四半期 決算説明会【QA まとめ】

- Q5. 中東影響について、販売減とコストアップに分けた金額影響を教えてください。また、販売減についてはどの地域を織り込んでいるのか。**
- A5.** 中東影響 346 億円のうち、約 80 億円が販売減によるもので、残りがコストアップによるものである。コストアップは、原油高に伴う生産材・部材価格の上昇に加え、光熱費や物流費の上昇による影響も含まれている。販売減については、中東向けおよび中東を経由して販売するアフリカ向けの販売減を織り込んでいる。
- Q6. メモリ価格高騰によるマイナス影響が 60 億円増加している背景を教えてください。足元ではメモリ価格の上昇が続いているが、調達リスクも含めた来年の見通しを教えてください。**
- A6.** メモリ価格は、主に四半期ごとに改定されており、今回の計画には現時点の価格に今後の相当程度の上昇を織り込んでおり、今後、想定を上回る価格上昇があればさらなるコストアップの可能性もあるが、現時点では年内に大きな変動は想定していない。来年以降についても、一定程度の価格上昇が想定されており、来年の状況が徐々に見えてくる年末に向けて調達計画を作成していく。
- Q7. 今回計画に反映したコストの悪化に対して、今後価格転嫁を行っていくのか。また、コストアップに対する値上げ影響は、営業利益分析（説明会資料 P15）の「販売価格」に含まれているのか。**
- A7.** 中東情勢やメモリ価格高騰によるコストアップに対しての値上げはすでに一部実施している。今後については、販売数量への影響を勘案しながらタイミングを含めて検討していく。なお、コストアップに対する値上げは営業利益分析の「販売価格」に織り込まれている。
- Q8. プリンティングについて、足元ではプリント機器の商談が活発化し、下期には販売が上向く見通しとのことだが、特に回復の兆しが見られる地域を教えてください。**
- A8.** 各社が関税の還付金を受け取っていることも関係しているかもしれないが、これまで関税影響を特に大きく受けていた米国において商談が活発化してきている。

キヤノン株式会社

2026 年 第 2 四半期 決算説明会【QA まとめ】

Q9. メディカルの生産トラブルについて、売上・利益への影響とあわせて内容を教えてほしい。

A9. 生産システム切り替えにおける不具合と調達先の被災により、生産に必要な部品を納期通りに調達できず顧客への製品供給に大幅な遅れが生じている。取引先と納期前倒しの個別交渉を行っており、9 月にはおおむね生産を正常化させる計画である。業績への影響としては、売上へのマイナス影響が第 2 四半期で約 150 億円、下期で約 250 億円と見込んでおり、利益に対しては年間で約 200 億円のマイナス影響を見込んでいる。

Q10. 半導体露光装置の販売台数見通しを前回計画から 11 台引き下げているが、用途別に内訳を教えてほしい。

A10. 需要拡大を受けてメモリ向けの台数計画を増やしているが、パワー半導体向けおよびアナログ IC 向けについては計画を引き下げている。

Q11. 半導体露光装置の増産対応の状況と来期の見通しについて教えてほしい。

A11. メモリ向けの需要増からすると今年の台数計画をさらに増やすべきだが、昨年末にオーダーが減少し、その後需要が急速に拡大してきたため部品調達が追い付いておらず、サプライヤーへ前倒し生産をお願いしている。来年以降はサプライヤーも含めた生産状況が改善し、生産キャパシティも 2 割以上増加する見込みであり、需要に見合った生産ができていくと期待している。

来期については、i 線はパワー半導体向けの需要が回復する見込みであり、KrF もメモリ向けの販売が引き続き増加し、どちらも販売台数を増やす見込みである。

Q12. 在庫について、当初は回転日数 60 日以下を目指していたが、今回の計画では年末時点で、どの程度を見込んでいるのか。

A12. 通常であれば 60 日以下を目指す但、当期末は、メモリを中心に逼迫状態にある半導体部品の在庫を戦略的に積み増すことに加え、インダストリアル増産対応などもあり、65 日程度としている。

以上